

受賞記念講演：「2023年アジアの展望とERIAの役割」

大賞／アンヘル・グリア 前OECD事務総長

2023年、世界の経済は大変難しい状況を迎えるでしょう。こうした中、一貫性ある経済政策により、投資を呼び込むことが重要になってきます。加えて、民主主義の危機も問題となっています。アジアの成長も、海外からの投資が減少傾向にあって鈍化しており、進むべき方向性が見えない状況です。

経済や貿易だけでなく、政治はどうでしょうか。タイ、マレーシア、カンボジア、ミャンマーと、アジア各国に政変の兆しがあり、今後は政治的リスクも高まっていくでしょう。

税制に目を向けると、税金の対GDP比はOECD全体で34%、日本が30%であるのに対し、アジア全体では19%となっています。このことは、アジア諸国では、自分たちで公共政策を実行し、より良い生活を得るためのリソースが不足していることを意味しています。この課題の解決には財政改革が求められます。

世界経済の9.3%を占める中国は、これまで8~10%の経済成長率を見せていましたが、現在は3%程度に低下しています。ゼロコロナ政策の結果、大きな代償を払うことになったのです。アメリカとの関係改善が大きな課題です。一方インドは、中国とアメリカの対立の外で利益を享受しているように思われます。民主主義であり、市場経済も機能しています。中国に集まっていた投資の一部はインドに流れ、2014年に就任したモディ首相を中心に優れたビジネス環境が構築されつつあります。

少し離れたところから見て私にとって、アジアは素晴らしいモザイクだと思います。しかし、各国が政治的リスクを有しており、中国とインドという大国も抱えています。政治的・経済的な信頼度は高まっているものの、インフレや戦争といった世界の様々な出来事にアジアだけで対応することはできません。

アジアの成長のエンジンは、貿易を増やし、経済開発を促進することです。OECDの事務総長だったとき、ASEAN版OECDを構築できないかと相談を受け、これは素晴らしいアイデアだと思いました。その後、設立されたERIAは、様々な分野の事業を行っており、ASEAN地域の大きな資産となっています。

しかし、多国籍組織であるOECDやERIAが行うことは提案にとどまっており、最終的な実践は当事者国に委ねられます。つまり、提案を政策にどう落とし込むかは国次第で、それにはリーダーの政治的信念が関わることです。

2008年の経済危機、コロナパンデミック、そしてウクライナ侵攻と、世界では様々な問題が起こってきました。我々はそれに対応していかなければなりません。

その中で忘れてはならないのは、我々にはこの地球を守るという世代を超えた責任があることです。地球という惑星は一つしかないのです。生物多様性の問題、森林や海、プラスチックの問題もあります。

政治についても、多様性が失われている国や、二極に分断されている国が増えており、民主主義への脅威となっています。

様々な問題を解決する答えは、多国間主義です。それによって国際協力、自由貿易、投資がなされ、思想、表現、性、宗教、自然における自由や多様性が守られます。我々はこれらを失ってははいけません。守っていかなければなりません。そうでないと我々は種としても存続ができなくなってしまいます。そして、これらは全て政策の質が関わってくる問題であることを忘れてはいけません。より良い政策がより良い生活を生み出すのです。

